

Red Cross Kyoto

赤十字 きょうと 2019 4月号



被災者に対する問診の方法を学ぶ救護班要員（管内合同訓練／京都府赤十字血液センター）



車いすの介助を体験する参加者（赤十字防災セミナー／宇治市立南宇治中学校）

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

 **日本赤十字社** 京都府支部
Japanese Red Cross Society



災害に備える ～救護訓練を実施～

訓練の検証を行う参加者

京都府支部では、職員やボランティアによる救護訓練を定期的実施し、災害時における連携や資機材の使用方法等について学ぶなど、知識や技術の向上に努めています。



無線機の使用方法について学ぶ救護班要員

府内の赤十字施設が合同で訓練を実施

2月23日(土)、京都市伏見区の京都府赤十字血液センターにおいて、京都府内の赤十字施設が合同で災害救護訓練を行いました。

京都府支部、府内3病院(第一・第二・舞鶴)及び京都府赤十字血液センターの職員に加え、支部特殊奉仕団の「赤十字レスキューチェーン京都」や救急法指導員、京都第一赤十字看護専門学校の学生など総勢93名が参加し、災害対策本部への参集、活動報告、避難所での診療活動、情報収集などの訓練を行うとともに、厳しい環境の中で過ごす被災者に対する赤十字救護班の接し方等について理解を深めました。

宇治川マラソン大会で救護活動を実施

2月24日(日)、宇治市で第35回宇治川マラソン大会が行われました。

大会には約2,300人のランナーが参加し、住民や観光客の皆さんから温かい声援が送られる中、アップダウンの激しいコースに挑みました。

京都府支部では、赤十字レスキューチェーン京都等のボランティアと協力し、コース上8か所にAEDを持ったスタッフを配置するとともに、バイクによるモバイルAED2班と管内病院の救急車を出勤させ、万が一の事態に備えました。

幸いにも大事に至るような事案はなく、無事活動を終了することができました。



ボランティアを交えたオリエンテーション

院内災害救護訓練を実施

2月3日(日)、京都第二赤十字病院において、職員175名と看護専門学校の学生41名の計216名が参加し、7回目となる院内災害救護訓練を実施しました。

この訓練は災害によって負傷した多数の傷病者を受け入れるというもので、病院の災害時対応能力を強化する目的で毎年実施しています。

今回は「平成30年度近畿地方DMATブロック訓練」と同時に実施し、院内災害対策本部の役割、院内救護所運営等の院内体制だけでなく、他病院DMATの受入れ、傷病者の院外搬送等の外部との連携についても確認を行いました。



簡易ベッドを使用し多数の傷病者に対応

災害対応を学ぶ ～防災セミナーを実施～

城陽市地区赤十字奉仕団（城炊会）の指導の下、ハイゼックス炊飯の炊き出しを体験する中学生

京都府支部では、防災セミナー等を通じて、住民の方々が将来起こり得る災害に対して正しい知識を持ち、自ら考え、判断し、危険から身を守る行動がとれるよう、知識や技術の普及・啓発を行っています。

中学生と大人が力を合わせて防災学習

2月15日（金）、宇治市立南宇治中学校で赤十字防災セミナーを開催し、同中学校1年生や西大久保地連合自治会・宇治市西大久保地自主防災会、城陽市地区赤十字奉仕団、赤十字レスキューチェーン京都の皆さんなど110人が参加しました。

今回のセミナーは平日の災害を想定した地域密着型のセミナーであり、参加者のメンバー構成を中学生と大人の混成形式にすることにより、世代を超えて一緒に防災について考えることができました。

参加者からは「孫のような子どもたちと力を合わせることで、楽しかった」「災害が起こったときに、地域で自分に何ができるのか考える機会になった」といった声が上がっていました。



避難所の運営方法について
話し合う大人と中学生



被災者の気持ちを考えながら
自分の意見を発表

金閣小学校で防災教育プログラム 『自分だったらどうする』を実施

2月20日（水）に京都市青少年赤十字教育研究会主催の授業研究会として、京都市立金閣小学校で防災授業が実施されました。

6年生25名が、もし自分たちの学校が地震で廃校になったら、震災遺構として学校を「残す」か「残さない」かなど、「自分だったらどうする」のかについて考えました。子どもたちからは、「地震の怖さを知って防災に力を入れてほしいので残す」「早く忘れたい」など多くの意見が発表されました。

血液センターが「劇場版 響け！ユーフォニアム ～誓いのフィナーレ～」とタイアップ

京都府赤十字血液センターでは、4月19日（金）に公開される映画「劇場版 響け！ユーフォニアム～誓いのフィナーレ～」とタイアップします。

期間は4月19日（金）から5月末までの予定であり、期間中に京都府内の全ての献血会場（献血ルーム四条、京都駅前、伏見大手筋、献血バス）で400mL献血又は成分献血にご協力いただいた方のうち希望者の方にオリジナルクリアファイルを進呈しますので、献血に是非ご協力ください。

※ 記念品がなくなり次第終了となりますので、あらかじめご了承ください。



クリアファイルをプレゼント！

青少年宿泊事業等100回記念誌 「空は世界へ」を発行

京都府支部では、毎年8月に小学生、中学生、高校生が青少年赤十字について学習しながら、集団での生活や体験を通じて学校や社会のリーダーとなれるよう、自主性やリーダーシップを身につけるリーダーシップ・トレーニング・センターを学校の先生方にご指導をいただきながら実施しています。

この事業は、京都府支部が大正3年に全国で先駆けて虚弱児童を対象とした夏期保養所を天橋立に開設したことに端を発しており、平成30年8月に節目の100回目を迎えました。これを記念して、「青少年宿泊事業等100回記念誌『空は世界へ』」を作成し、青少年赤十字（JRC）加盟校等に配布しました。

今後とも、事業の更なる充実を図ってまいりますので、ご支援、ご協力の程よろしくお祈りいたします。



表紙を飾るのは
事業開始の地、天橋立の風景



今回で3年目を迎える赤十字バナーの掲揚

七条通に赤十字バナーを掲揚

京都府支部では、赤十字運動月間に合わせ、赤十字について広く府民の皆様にご存知いただくため、七条鴨東商店街様のご厚意の下、七条通（京都府支部前～川端通）に設置されている街灯に、4月13日（土）から6月9日（日）までの間、赤十字バナーを掲揚します。

5月は赤十字運動月間です

赤十字の活動は皆様からお寄せいただく活動資金によって支えられています。活動を継続し、更に充実させていくため、活動資金へのご協力をお願いします。

日本赤十字社京都府支部評議員会を開催

2月5日（火）、日本赤十字社京都府支部評議員会を開催し、支部及び各施設の平成31年度当初予算や平成30年度補正予算等の審議が行われ、原案どおり承認されたほか、血液事業の現状と今後の課題について報告が行われました。

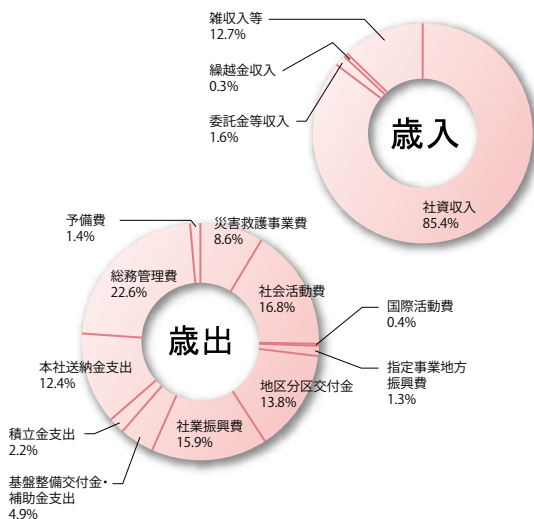
また、役員を選出について審議が行われ、次の方々を選出されました。

- ・ 副支部長 小石原範和氏
- ・ 監査委員 柏原康夫氏、渡邊隆夫氏
- ・ 代議員 今井民雄氏、横山義雄氏、澤田清一氏、菊地笑子氏、加藤厚氏



挨拶を行う山田啓二支部長

平成31年度京都府支部 一般会計歳入歳出予算



歳入		予算額(千円)		内訳	
社資収入	299,000			皆様(個人・法人)からの社費、寄付金など	
委託金等収入	5,648			献血推進事業に係る京都府からの委託金	
国際活動収入	1,220			管内施設からの負担金収入など	
雑収入等	44,342			講習会負担金収入など	
歳入合計	350,210				

歳出		予算額(千円)		内訳	
災害救護事業費	30,162			災害救護に係る経費、救護資機材等の整備費、救護看護師の養成経費など	
社会活動費	58,999			救急法、水上安全法、幼児安全法等の講習開催経費、赤十字社団や青少年赤十字の育成費など	
国際活動費	1,313			国際開発協力事業に係る経費など	
指定事業地方振興費	4,500			災害救援設備の整備に係る経費	
地区区分区交付金	48,400			地区区分区の事務費及び事業費	
社業振興費	55,525			社資や会員の募集、広報活動に係る経費など	
基盤整備交付金・補助金支出	17,064			医療施設や血液センターの基盤整備のための交付金	
積立金支出	7,691			施設整備準備資金積立金など	
本社送納金支出	43,425			本社の国内・国外活動に係る経費	
総務管理費	79,131			光熱費、事務費など	
予備費	4,000				
歳出合計	350,210				